

2024年6月28日

## 自社で編集チームを新設し、商品とお客様をつなぐ リテールメディアを本格的に開始！

～2024年7月1日（月）より売場連動型フリーマガジン『はとぼん』をスタート～

株式会社イトーヨーカ堂（本社：東京都品川区、代表取締役社長：山本 哲也、以下「イトーヨーカドー」）は、「食」を中心とした成長戦略を推進しており、さらに成長を加速させるため、2024年3月に「リテールメディアプロジェクト」を発足し、7月1日（月）より本格的にリテールメディアを開始いたします。

本プロジェクトは、小売業の課題の一つでもある、商品特性や作り手の想いが店頭で十分に伝わらないという課題を解決し、お買物に対する新たな体験価値の提供をより良くすることを目的としています。

本取組では、リテールメディアプロジェクトが中心にメーカー様と連携し、従来の商取引の関係に加え、価格だけではなく価値を中心に据えたコンテンツを創出します。

具体的な取り組みとして、約300万人の利用者を持つイトーヨーカドーアプリ内での広告・クーポンやイトーヨーカドーTV（サイネージ）、ホームページ、LINEなどを活用した情報発信に加え、新たに7月1日（月）からは紙媒体の売場連動型フリーマガジン『はとぼん』をスタートします。

『はとぼん』は、メーカー様と連携し、商品開発の背景やこだわりを伝えることで、商品の魅力を深く掘り下げ、商品のストーリーを楽しく読んでいただける冊子を目指します。

お客様のお買物体験をより良くするために、デジタルだけではなく、商品の特性や作り手の想いを最大限に伝えることを重視したコンテンツを作成します。そのため、社内に専門の編集チームを新設し、店頭に掲示物からデジタルまで横断したコンテンツの配信を行います。また、アプリやLINEなどでも同様にコンテンツの配信をしていく予定です。

リテールメディアを通じて、イトーヨーカドーはお客様に「商品の良さを伝える」新しい接客の形を実現し、お客様のより豊かなお買物体験の向上を目指してまいります。

（『はとぼん』創刊号の一例）



# 《『はとぼん』概要》

- 発行日：毎月1日発行
- ページ数：20ページ
- 発行部数：5万部
- 配布店舗数：イトーヨーカドー42店舗で配布
- 配布店舗：アリオ葛西店、アリオ蘇我店、アリオ川口店、アリオ亀有店、アリオ西新井店、アリオ北砂店、アリオ橋本店、アリオ深谷店、アリオ鷲宮店、アリオ上尾店、アリオ市原店、アリオ柏店、グランツリー武蔵小杉店、久喜店、武蔵境店、松戸店、船橋店、上永谷店、昭島店、和光店、我孫子店、三島店、赤羽店、大井町店、南大沢店、能見台店、幕張店、横浜別所店、甲府昭和店、川崎店、木場店、大和鶴間店、湘南台店、立場店、国領店、大宮宮原店、大森店、四街道店、三郷店、ららぽーと横浜店、武蔵小金井店、曳舟店  
 ※配布店舗は変更になる場合がございます。

第1特集では、イトーヨーカドーのお総菜100品を比較し、ランキング形式でご紹介。第2特集では、今年の暑い夏にぴったりのスイーツを紹介しています。「はと Cafe」では、人気グループ「THE RAMPAGE」の吉野北人さんのインタビューを掲載。また、創刊号のメーカー様とのタイアップとして、大塚製薬株式会社の「ポカリスエット」シリーズを特集し、熱中症対策のための効率的な水分補給を解説しています。イトーヨーカドーの対象店舗では、『はとぼん』を通じて「ポカリスエット」の製品特性や背景にある想いを伝えるための取り組みを進めてまいります。



(『はとぼん』と売場連動の取り組み一例)

(『はとぼん』設置状況)



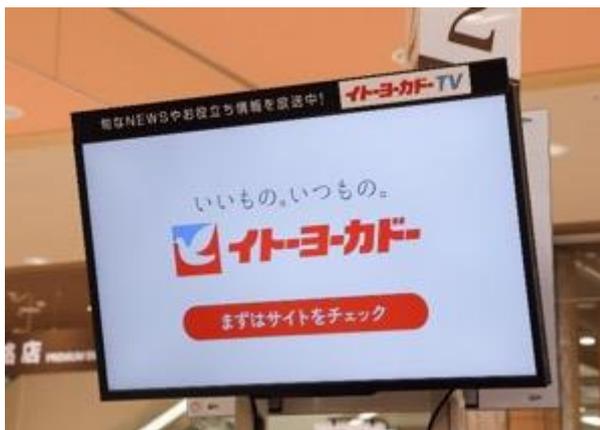
## 《イトーヨーカドーアプリ》

イトーヨーカドーアプリは会員数約 300 万人（2024 年 5 月末時点）。アプリ内で広告枠を設置しています。アプリ会員は「7 i D」に紐づいており、購買行動を基にターゲティング配信が可能で、購買行動を検証することも可能となっています。



## 《イトーヨーカドーデジタルサイネージ》

イトーヨーカドーの食品売場のレジエリアに、約 30 インチのデジタルサイネージを設置しています。これらのサイネージは、2024 年 6 月時点で 117 店舗に 770 台以上設置をしています。食品売場では毎日多くのお客様にご利用いただいております。そのお客様に向けて商品の訴求が可能となります。さらに、イトーヨーカドーアプリ、『はとぼん』などとの連動により、オンラインとオフラインの両方でお客へアプローチが可能です。これにより、お客様が店舗を訪れる前の商品認知から、店舗での購入を後押しするまで、一貫したコミュニケーションが可能となります。



以上